

# 大気の監視システムを更新

## 大気汚染とその監視

大気汚染の原因は、主に自動車と工場の煙突から出る排気ガス中の汚染物質です。過去には重大な大気汚染とそれに伴う深刻な健康被害が社会問題となりましたが、排気ガスの規制と燃料の質が向上したことなどもあり、大気環境の状況は大きく改善しています。

その一方で、近年は九州や西日本を中心に、中国からの越境汚染と見られるPM2.5（右下参照）濃度の上昇が確認されています。関東地方は距離が離れていることから、越境汚染の影響を受けにくいと考えられますが、大気環境は季節や気象によって大きく変化することから、船橋市においても適切な監視体制を整える必要があります。

市では、大気汚染を調査するために市内11か所に環境大気常時監視測定局（以下、測定局）を設置しています。各測定局では、付近の状況に応じた大気汚染物質を常時測定しています。また、大気測定車により毎月場所を変えて局地的な大気汚染状況を調査しています。



▲11か所ある測定局の一つである丸山局（左）と移動可能な大気測定車（右）



▲市内における測定局（11か所）の位置図

## 環境監視テレメータシステムを更新しました

環境監視テレメータシステムは市内11か所の測定局で測定している大気汚染物質濃度のデータを収集して環境省と千葉県に報告するとともに、「船橋市大気環境情報」としてホームページ上に最新の測定データを公開するものです。また、大気測定車からの測定データや、光化学スモッグとPM2.5の情報も提供しています。

市の大気環境の監視において重要な役割を担う環境監視テレメータシステムを平成26年11月に更新しました。

新しいシステムでは、サーバや通信回線を強化してデータの取り込み頻度を増やし、1分毎に測定局からのデータを収集しています。これにより詳細なデータの提供が可能になるとともに、機器の異常をいち早く検出できるため、データの欠測を減らして、より正確な情報を提供することができます。



▲環境監視テレメータシステムの中心を担っている情報処理装置

今回の更新で「船橋市大気環境情報」のホームページも併せてリニューアルしましたので、是非ご覧ください。URL:<http://www.funabashi-kantele.jp/taiki/>

## ふなばし光化学スモッグ・PM2.5情報

「ふなばし安全・安心メール」にご登録いただきますと、パソコン・携帯電話等に注意喚起情報が配信されます。

登録をご希望の方は、右のQRコードを読み取るか、宛先にfuna.smog@mpme.jpと入力していただき、空メール（件名・本文なし）を送信してください。案内のメールが返信されますので、その案内に沿ってご登録ください。



登録用 QR コード

※QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。

## ～ PM2.5（微小粒子状物質）～

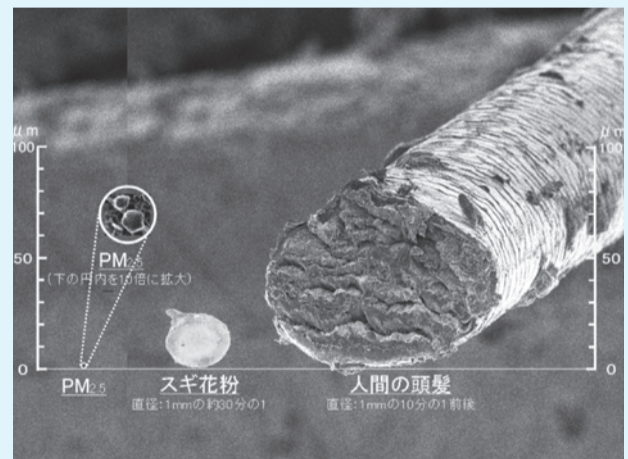
PM2.5とは、大気中に浮遊する小さな粒子のうち、径が2.5μm以下のものです。非常に小さいことから呼吸器の深くまで入り込み、人体に悪影響を及ぼすことが懸念されています。

PM2.5の発生源には、黄砂や火山灰などによる自然起源のものと、工場や自動車の排気ガスなどによる人為起源のものがあります。人為起源のものについては、排出源から直接発生する一次粒子と、窒素酸化物などが光化学反応を起こして発生する二次粒子に分けられます。

※「μm」は「マイクロメートル」と読み、「100万分の1m」を表します。

### ■市内のPM2.5の監視状況

一般環境大気測定局である高根台局（高根台第二小）と印内局（葛飾小）、及び自動車排出ガス測定局である日の出局（日の出交差点付近）の3局でPM2.5の濃度を常時監視しています。なお、県内のPM2.5の測定値について、高濃度になることが予測されると、千葉県から注意喚起が行われます。



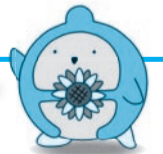
出典 東京都ホームページ

## 「エコふなばし」でわかる環境用語

### ESD (Education for Sustainable Development)

日本語にすると「持続可能な開発のための教育」という意味になります。今、世界には環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題があります。ESDとは、これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む（think globally, act locally）ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。つまり、ESDは持続可能な社会づくりの担い手を育てる教育です。

このコーナーでは、環境用語を紹介します！



2005年から2014年までの10年間で「国連持続可能な開発のための教育の10年」として、国はESDの総合的かつ効果的な推進を図るための施策を実施してきました。また、最終年の2014年11月には、愛知県名古屋市において「持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議」が開催され、10年間の活動を振り返り、2014年以降の方策についての議論を行いました。

（参考）文部科学省ホームページ